

## アセスメントポリシー（学修成果の評価の方針）

本学では、ディプロマポリシー（DP）・カリキュラムポリシー（CP）・アドミッションポリシー（AP）に基づき、その目的、達成すべき質的水準及び具体的実施方法などについて、大学及び教育課程と授業科目毎に、学修成果を評価する方針を定めます。

### 【目的】

1. ディプロマポリシー（学位授与に関する方針）に定める「豊かな人間性と社会人基礎力」「創意工夫力・問題解決力」「専門的知識・技術の活用力及び実務型技術者としての実践力」の資質・能力に関する学修成果の把握・評価を行います。
2. 学修成果及び各授業の学習成果を把握・評価することで、教育課程毎及び各教員の教育の質的向上に取り組めます。
3. 学修成果を把握・評価することで、学生自らが目標の振り返り・新たな計画策定により、学生が自身の成長を実感できるようにします。
4. 社会が求める学修成果の把握・評価に関する教育情報を公表します。

	入学時	在学中	卒業時（後）
大学レベル 及び教育課程レベル （研究科・学科・系）	卒業要件・単位取得状況など社会人基礎力向上等から教育課程全体を通じた学修成果の達成度を検証する。 最終的な総合評価は、卒業研究において検証する。		
	①各種入学試験 ②調査票等の記載内容 ③面接・エントリーシート ④学修ポートフォリオ（高校時振り返り） ⑤入学前課題レポート	①GPA、退学勧告 ②修得単位数 ③学修時間・行動・満足度調査 ④学修ポートフォリオ（振り返り・計画） （社会人基礎力・人間力評価） ⑤退学率・出席率 ⑥課外活動状況	①卒業時満足度（就職・学園生活等）及び学修成果自己評価アンケート ②学位授与率 ③就職率（進学も）、就職先 ④DP 達成評価（各学生、卒業研究） ⑤卒業後アンケート（学修改善）
科目レベル	シラバスに記載している学習目標に対する評価や学生による授業アンケート結果から、科目毎の達成状況を検証する。		
	①プレースメントテスト	①シラバス ②成績評価 ③授業評価アンケート	①DP 達成評価（卒業研究）

## 学修成果の評価ガイドライン

本学は、「アセスメントポリシー（学修成果の評価の方針）」を踏まえ、具体的なその目的、達成すべき水準、評価の実施方法について、ガイドラインを定めます。

### 【 目的 】

1. ディプロマポリシー（学位授与に関する方針）に定める「豊かな人間性と社会人基礎力」「創意工夫力・問題解決力」「専門的知識・技術の活用力及び実務型技術者としての実践力」の資質・能力に関する学修成果の把握・評価を行います。
2. 学修成果及び各授業の学習成果を把握・評価することで、教育課程毎及び各教員の教育の質的向上に取り組みます。
3. 学修成果を把握・評価することで、学生自らが目標の振り返り・新たな計画策定により、学生が自身の成長を実感できるようにします。
4. 社会が求める学修成果の把握・評価に関する教育情報を公表します。

### 【 水準 】

#### 1. 授業科目

各授業における達成基準は、「西日本工業大学履修に関する規程」第 19 条に定めた評価基準とし、達成基準は「可（C）（GP が 1）」以上とします。

種別	評語	点数	到達目標	Grade Point
合格	S（秀）	100 点~90 点	到達目標を超えたレベルに達している	4 点
	A（優）	89 点~80 点	到達目標に達している	3 点
	B（良）	79 点~70 点	到達目標に概ね達している	2 点
	C（可）	69 点~60 点	最低限の目標に達している	1 点
不合格	E（不可）	59 点以下	目標に達していない	0 点
	F（履修放棄）	0 点	受験資格を満たさなかった場合	0 点
認定		—	他大学等で修得した単位	—

GPA 算出方法<sup>1)</sup>（授業科目で取得した GP×授業科目の単位数）の総和／履修した科目の総単位数

#### 2. 成績評価の平準化

成績評価基準の内、秀（S）は「到達目標を超えたレベルに達している」と定義づけた。よって、秀（S）の割合を全履修数の原則 25%以内とします。なお、10名に満たない履修数の科目は 2名以内とします。

また、成績の公平性の確保と学生等への説明責任を果たすため、各授業成績の GP 割合を教職員及び学生に公表（履修者数が少ない授業科目などは除く）します。

#### 3. 履修・修得単位数

3 年次修了時に達成すべき水準は、「履修に関する規程」に定義されている 4 年生必修科目である「卒業研究」

の着手条件の1・2年次の必修科目を含んで100単位以上の修得です。また、卒業認定について達成すべき水準は、124単位以上です。さらに、各学年で達成すべき標準的な年間取得単位数を34単位と定めています。

#### 4. GPA水準等（退学勧告）

達成すべき質的水準として、成績 GPA1.0 以上とし、半期 GPA1.0 未満（及び標準的な累計取得単位数を下回る）の学生に対しては、ガイダンス担当教員より、指導を行います。3学期連続で指導対象となった場合かつ成業の見込みがない場合には、本人に退学勧告を行います。

#### 5. 社会人基礎力・学修状況（学修ポートフォリオ）の評価

在学中の社会人基礎力及び学修状況をはかる。社会人基礎力については、学務システムの「将来の夢・目標」を利用し、学生の自己申告と担当教員の評価及び指導を行います。また、学修状況については、アンケートによるデータの蓄積により在学中の成長度をはかる。最終的には、卒業研究において総合評価を行います。

#### 6. DPに基づく学位認定評価

DP（ディプロマポリシー）で求める資質・能力は各科目に配置されており、卒業要件に必要な単位数と「卒業研究」の評価60点（可（C））以上をもって、学位認定に足りる水準します。

なお、「卒業研究」は、本学 DP の「豊かな人間性と社会人基礎力」「創意工夫力・問題解決力」「専門的知識・技術の活用力及び実務型技術者としての実践力」を資質・能力をはかるため、担当教員による「社会人基礎力」「卒業論文などの成果」の項目と複数教員による「プレゼンテーション」等の項目を持って総合評価します。

### 【 評価 】

#### 1. 学生の各授業科目における資質・能力の測定

- （1）授業科目毎のシラバスに記載された「授業の到達目標」及び「評価方法」の達成度について成績基準により測定を行います。
- （2）授業アンケートにおける理解度・満足度により測定を行います。

#### 2. 学生の学修に係る意識及び行動の測定

意欲・予習復習学修時間・理解できない時の対応等のアンケート結果を経年比較し、測定します。

#### 3. 学生の学位認定の測定

4年間の学修成果の集大成である卒業研究において、DPに定める全ての資質・能力の項目について評価し、測定します。

#### 4. 教育課程における学生が修得した資質・能力の測定

- （1）学位取得率
- （2）学年毎の卒業に必要な単位取得割合
- （3）学年毎のGPAとその分布
- （4）卒業研究評価のGP分布
- （5）資格・免許の取得者数（教職免許の取得、各種資格の取得者数）

- (6) 就職・進学率（希望者比及び卒業生比）
- (7) 授業アンケートにおける自己評価結果の平均値
- (8) 卒業時アンケートによる「成長の実感」「満足度」「社会人基礎力」などの平均値
- (9) 卒業後アンケートによる「学修評価」「満足度」「社会人基礎力」等の平均値

## 5. 教育課程における学生の意識及び行動の測定

- ・ 学修実態・学生満足度調査における結果の分布と経年比較  
（ 授業への出席率、授業理解度、授業外学修時間、授業・教員満足度、職員満足度、大学満足度など）

## 6. 効果のある授業手法の測定

- ・ OB 就職先への授業手法評価、学生の卒業時・後アンケート調査

## 7. 外部有識者等による教育改善の取り組み評価

- ・ 教育課程などの取り組みについての外部評価

## 【 情報公表 】

1. 授業科目については、履修者数が少ない科目（原則、10 名未満の科目）を除き、授業科目ごとの成績評価（GP）の分布について、学内システムで、教職員及び学生に公開します。
2. 教育課程における学生が修得した資質・能力に関する各項目について、データ集積及び分析が終了したものから、暫時、本学ホームページにて、情報公表を行っていきます。